

「MY TREE 父親プログラム」の効果測定(2021 年度)

1. 目的

「MY TREE 父親プログラム」の実施前後に行ったアンケート調査を比較検討することによって、「MY TREE 父親プログラム」の効果について検討を行いました。

2. 調査方法

2-1 調査対象

調査対象は、2021 年度に実施した「MY TREE 父親プログラム」に参加した 6 人です。

参加者の平均年齢（±標準偏差）は、表 2-1 に示すように、40.3±8.8 歳（最小年齢 30 歳、最大年齢 53 歳）でした。

表 2-1 参加者の平均年齢

	度数	最小値	最大値	平均値	標準偏差
年齢	6	30	53	40.3	8.8

参加経路別にみると、自主的参加は 3 人（50.0%）、紹介は 3 人（50.0%）と同数でした。

表 2-2 参加経路

参加経路	度数	%
自主的	3	50.0
紹介	3	50.0
合計	6	100.0

図 2-2 参加経路

2-2 調査時期

2021 年 9 月 4 日から 12 月 5 日に実施した「MY TREE 父親プログラム」の前後にアンケート調査を実施しました。8 月 29 日に実施前のアンケート調査（以下、プレ調査）、12 月 5 日配布 12 月 18 日提出にて、実施後のアンケート調査（以下、ポスト調査）を実施しました。

2-3 調査内容

調査項目は、育児意識に関する 13 項目（順序尺度：1「はい」、2「どちらかといえばはい」、3「どちらかといえばいいえ」、4「いいえ」の 4 件法）、自己評価に関する 15 項目（順序尺度：1「全くない」、2「年に 1・2 回ある」、3「月に 1・2 回ある」、4「週に 1・2 回ある」、5「ほとんど毎日」の 5 件法）と、子育て状況に関する項目 9 項目（名義尺度：「はい」、「いいえ」の 2 件法、ただしⅢ-5 の項目については「過去」「今」「いいえ」の 3 件法）です。この調査項目は、母親を対象とする「MY TREE ペアレンツ・プログラム」と同じです。「MY TREE 父親プログラム」では、これに子育て状況に関する 2 項目「DV をしている。過去にしたことがある」（「過去」、「今」、「いいえ」の 3 件法）と「メインで子育てするのは誰ですか」（「自分」、「妻」の 2 件法）の 2 項目を追加しています。

3. 分析方法

3-1 基礎集計

すべての項目について、基礎集計を行いました。

3-2 子育て状況：クロス集計のカイ2乗検定によるプレ・ポスト調査の比較

子育て状況については、プレ調査結果とポスト調査結果の関連性を検討するために、クロス集計を行い、カイ2乗検定を行いました。

3-3 育児意識と自己評価：Wilcoxon の符号付き順位検定によるプレ・ポスト調査の比較

プレ調査結果とポスト調査結果を比較するために、育児意識と自己評価の項目についてはウィルコクソンの符号付き順位和検定を行いました。なお、この検定を用いたのは、各項目についてシャピロ・ウィルク検定を行った結果、正規分布を示していなかったからです。

3-4 育児意識や自己評価に関する下位尺度得点のプレ・ポスト調査の比較

育児意識や自己評価については、母親を対象とする「MY TREE ペアレンツ・プログラム」実施後に行ったポスト調査のデータを因子分析した結果抽出された因子を使用しました。育児意識の因子は「体罰容認」「被害感情」「悲観的思考」の3因子、自己評価の因子は「感情コントロール困難」「孤立感・不自信」「身体的暴力」の3因子です。各因子の下位尺度得点を算出しました。育児意識や自己評価について否定的であるほど得点が高くなるように得点を付値しました。育児意識や自己意識に関する下位尺度得点のプレ・ポスト調査結果を比較するためにウィルコクソンの符号付き順位和検定を行いました。なお、統計処理を行うに当たっては、人数の少ない対象者の分析が可能な IBM SPSS ヴァージョン 27 Exact Test の統計ソフトを用いて正確な有意確率を算出しました。

4. 調査結果

4-1 子育て状況の変化（表 4-1）（次ページ）

子育て状況については、表 4-1 に示すように、いずれの項目についても有意差はなく、プログラム実施による変化は認められませんでした。対象人数が少なかったこと、また、プレ調査において肯定的な回答が多かったからだと思います。

4-2 育児意識と自己評価のプレとポストの比較（Wilcoxon の符号付き順位検定）

4-2-1 育児意識のプレとポストの比較（Wilcoxon の符号付き順位検定）（表 4-2-1）

表 4-2-1 に示すように、育児意識のいずれの項目についても、プレ・ポスト調査結果に有意差はなく、変化は認められませんでした。対象人数が少なかったこと、また、プレ調査において肯定的な回答が多かったからだと思います。

表 4-2-1 育児意識のプレ・ポスト調査の比較（Wilcoxon の符号付き順位検定）n = 6

	プレ		ポスト		Wilcoxon の符号付き順位検定/正確な有意確率（両側）	有意差
	平均値	中央値	平均値	中央値		
I-1 手のかかる子どもがいるので腹が立つ	1.8	2	1.3	1	0.250	ns
I-2 子どもは私を困らせてばかりいるように感じる	1.5	2	1.2	1	0.500	ns
I-3 うちの子は、なかなか言うことを聞かないので腹が立つ	1.8	2	1.7	2	0.625	ns
I-4 子どもを甘やかすとつけあがると思う	1.7	2	2.0	2	0.750	ns
I-5 悪いことをしたら、体罰も必要だ	2.0	2	1.3	1	0.250	ns
I-6 言ってもわからない時は、体罰でわからせることが必要だ	2.0	2	1.3	1	0.500	ns
I-7 どんな場合でも、しつけにおいて、暴力をふるうべきではないとは思わない	2.7	3	1.8	2	0.250	ns
I-8 言葉で1,2度注意してもきかない時は、ある程度の体罰もやむを得ない	2.2	2	1.8	2	0.500	ns
I-9 子どもが危険な時、叱咤の暴力（体罰）はやむを得ない	3.3	4	2.5	3	0.375	ns
I-10 困ったことが起きても必ず解決できると思わない	1.8	2	1.5	2	0.500	ns
I-11 困難に直面した時は悪い事態を考えるほうだ	2.0	2	2.2	2	1.000	ns
I-12 面倒な事には最初からあきらめる	1.5	1	1.7	2	1.000	ns
I-13 困った時は、誰かに相談できない	2.2	2	1.8	2	1.000	ns

注1) 尺度：1位「いいえ」、2位「どちらかといえばいいえ」、3位「どちらかといえばはい」、4位「はい」
 2) ブルーの網掛けは逆転項目の文言を修正している
 3) ns：有意差無

表 4-1 子育て状況のクロス集計とカイ 2 乗検定

項目	回答	プレ		ポスト		カイ2乗検定 正確有意確率
		人数	%	人数	%	
Ⅲ-1 子育てを手伝ってくれる人がいる	はい	2	33.3	2	33.3	一定のため統計量は計算されません
	いいえ	0	0.0	0	0.0	
	不明	4	66.7	4	66.7	
	合計	6	100.0	6	100.0	
Ⅲ-2 子育ての大変さをわかってくれる人がいる	はい	5	83.3	5	83.3	一定のため統計量は計算されません
	いいえ	0	0.0	1	16.7	
	不明	1	16.7	0	0.0	
	合計	6	100.0	6	100.0	
Ⅲ-3 子育ての相談が出来る人がいる	はい	5	83.3	5	83.3	一定のため統計量は計算されません
	いいえ	0	0.0	1	16.7	
	不明	1	16.7	0	0.0	
	合計	6	100.0	6	100.0	
Ⅲ-4 子どもの健診（0歳、1歳、3歳児健診など）は受けている	はい	6	100.0	6	100.0	一定のため統計量は計算されません
	いいえ	0	0.0	0	0.0	
	合計	6	100.0	6	100.0	
Ⅲ-5 DVを受けている。過去に受けたことがある	過去	1	16.7	2	33.3	0.400
	今	0	0.0	0	0.0	
	いいえ	4	66.7	3	50.0	
	不明	1	16.7	1	16.7	
	合計	6	100.0	6	100.0	
Ⅲ-6 過去にDVを受けたことがある人のみ：（過去のDVが）今も影響している	はい	2	33.3	1	50.0	一定のため統計量は計算されません
	今	0	0.0	0	0.0	
	いいえ	0	0.0	1	50.0	
	合計	2	100.0	2	100.0	
Ⅲ-7 リラックスできる時間がある	はい	6	100.0	6	100.0	一定のため統計量は計算されません
	いいえ	0	0.0	0	0.0	
	合計	6	100.0	6	100.0	
Ⅲ-8 子育て以外の困った時に相談できる人がいる	はい	3	50.0	4	66.7	0.100
	いいえ	2	33.3	2	33.3	
	不明	1	16.7			
	合計	6	100.0	6	100.0	
Ⅲ-9 自分が楽しめることをしている	はい	6	100.0	5	83.3	一定のため統計量は計算されません
	いいえ	0	0.0	1	16.7	
	合計	6	100.0	6	100.0	
Ⅲ-10 楽しいことを一緒にする友人や家族がいる	はい	4	66.7	5	83.3	一定のため統計量は計算されません
	いいえ	0	0.0	0	0.0	
	不明	2	33.3	1	16.7	
	合計	6	100.0	6	100.0	
Ⅲ-11 DVをしている。過去にしたことがある	過去			4	66.7	
	今			0	0	
	いいえ			2	33.3	
	合計			6	100.0	
Ⅲ-12メインで子育てをするのは誰ですか	自分			2	33.3	
	妻			4	66.7	
	合計			6	100.0	

4-2-2 自己評価のプレとポストの比較 (Wilcoxon の符号付き順位検定) (表 4-2-2)

表 4-2-2 からわかるように、自己意識のいずれの項目についても同様に、プレとポストの間に有意差なく、変化は認められませんでした。対象人数が少なかったこと、また、プレ調査において肯定的な回答が多かったからだと推察されます。

表 4-2-2 自己評価のプレとポストの比較 (Wilcoxon の符号付き順位検定) n=6

	プレ		ポスト		Wilcoxon の符号付き順位検定/正確な有意確率 (両側)	有意差
	平均値	中央値	平均値	中央値		
II-1 私は価値のないつまらない存在だと思ふことがある	1.7	1	2.3	2	0.50	ns
II-2 自分の人生は辛いことが多すぎると思ふことがある	2.2	2	2.3	2	1.00	ns
II-3 人はどうせ自分から離れていってしまうと思ふ	1.2	1	2.0	2	0.50	ns
II-4 つらいときにも助けをもとめることができない	1.8	1	2.3	2	0.75	ns
II-5 自分のほんとうの気持ちを人に語れないときがある	2.5	2	2.3	3	1.00	ns
II-6 子どもに暴言を吐いてしまう	2.0	2	1.5	1	0.50	ns
II-7 子どもをほめるよりも、けなしてしまう	2.0	2	1.5	1	0.50	ns
II-8 怒りを子どもに爆発させてしまう	2.3	2	1.5	2	0.25	ns
II-9 しつけとして、子どもをベランダや屋外に閉めだす	1.5	2	1.2	1	0.50	ns
preII-10 罰として、子どもの気に入っているものを壊す	1.2	1	1.3	1	1.00	ns
II-11 つい子どもに怒鳴っている	2.5	3	1.7	2	0.13	ns
II-12 腹がたつと、子どもを無視する	1.2	1	1.0	1	1.00	ns
II-13 しつけとして、子どもに平手で叩く	2.2	2	1.5	2	0.25	ns
II-14 子どもにげんこつで殴る	1.3	1	1.2	1	1.00	ns
II-15 子どもを足蹴りする	1.5	2	1.3	1	1.00	ns

注1) 尺度: 1位「全くない」、2位「年に1、2回ある」、3位「月に1、2回ある」、4位「週に1、2回ある」、5位「ほとんど毎日」
2) ns: 有意差無

4-3 育児意識と自己評価の下位尺度得点に関するプレ・ポスト調査の比較

(表 4-3、図 4-3-1、図 4-3-2)

「MY TREE 父親プログラム」の効果を検討するために、プレ・ポスト調査の育児意識と自己評価の各因子の下位尺度得点について、ウィルコクソンの符号付き順位検定を行いました。

表 4-3 育児意識や自己評価に関する下位尺度得点のプレとポストの比較

		プレ・ポスト	度数	順位平均値	中央値	Z	正確な有意確率 (両側)
育児意識	第1因子体罰容認	プレ	6	2.31	2.42	-.843b	0.500
		ポスト	6	1.81	2.00		
	第2因子被害感情	プレ	6	1.72	1.83	-.962b	0.500
		ポスト	6	1.39	1.33		
	第3因子悲観的思考	プレ	6	1.88	1.63	-.184b	1.000
		ポスト	6	1.79	1.75		
自己評価	第1因子感情コントロール困難	プレ	6	2.00	2.20	-2.023b	0.0625 ⁺
		ポスト	6	1.43	1.20		
	第2因子孤立感・不信感	プレ	6	1.87	1.30	-.813c	0.500
		ポスト	6	2.27	2.00		
	第3因子身体的暴力	プレ	6	1.53	1.60	-1.289b	0.375
		ポスト	6	1.30	1.20		

注1) a. Wilcoxon の符号付き順位検定 b. 正の順位に基づく c. 負の順位に基づく
2) オレンジ色網掛け → + : 0.05 < p < 0.1 で有意差の傾向有

表 4-4、図 4-4-1 と図 4-4-2 からわかるように、自己意識の「感情コントロール困難」因子以外の因子については、有意差は認められなかったため、変化はなかったと言えます。しかし、「感情コントロール困難」に関しては、プレ調査よりポスト調査の下位尺度得点が低くなっていました ($0.05 < p < 0.1$ の有意差傾向)。

このことから、「MY TREE 父親プログラム」に参加することによって、「感情コントロール困難」が軽減される傾向があることが明らかになりました。

図 4-3-1 育児意識に関する下位尺度得点のプレとポストの比較 (n=6)

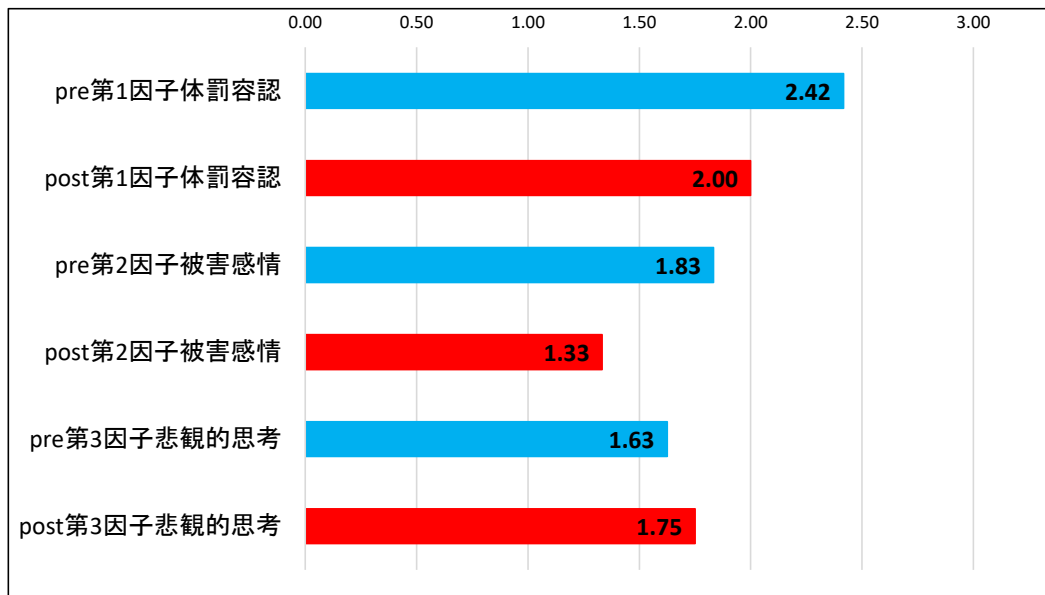
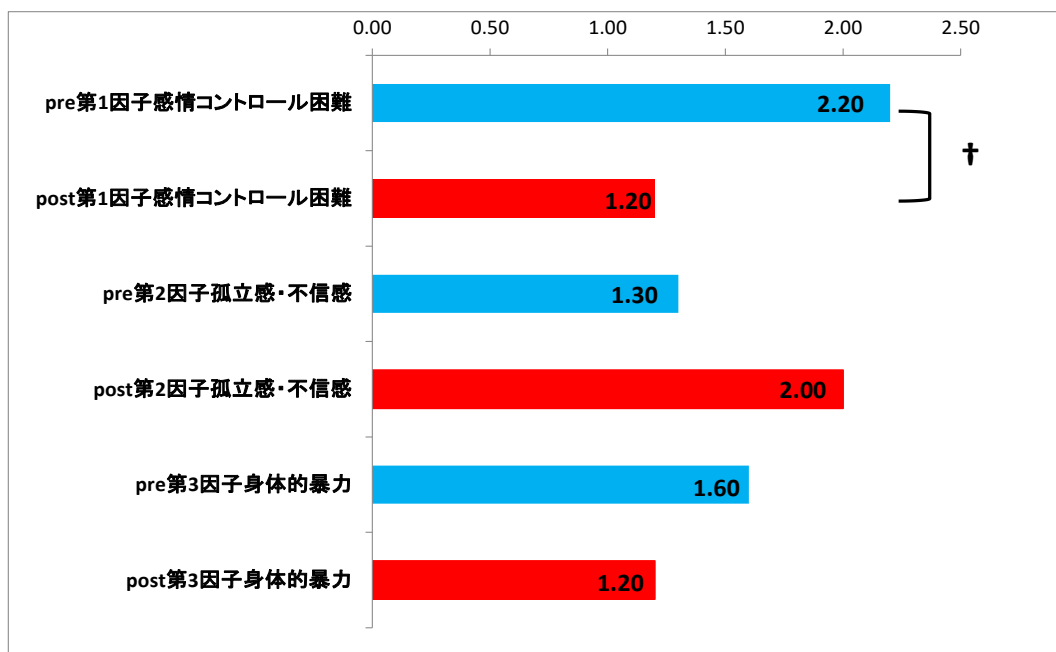


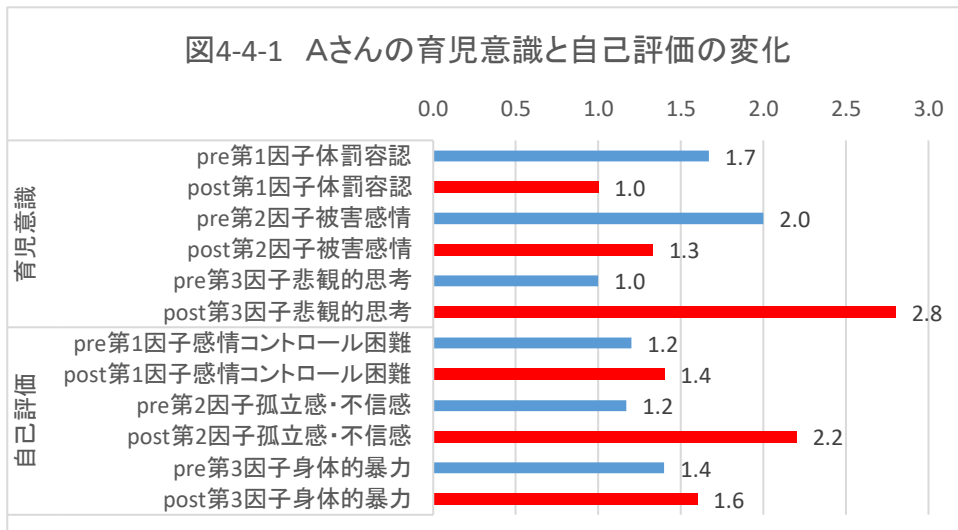
図 4-3-2 自己評価に関する下位尺度得点のプレとポストの比較 (n=6)



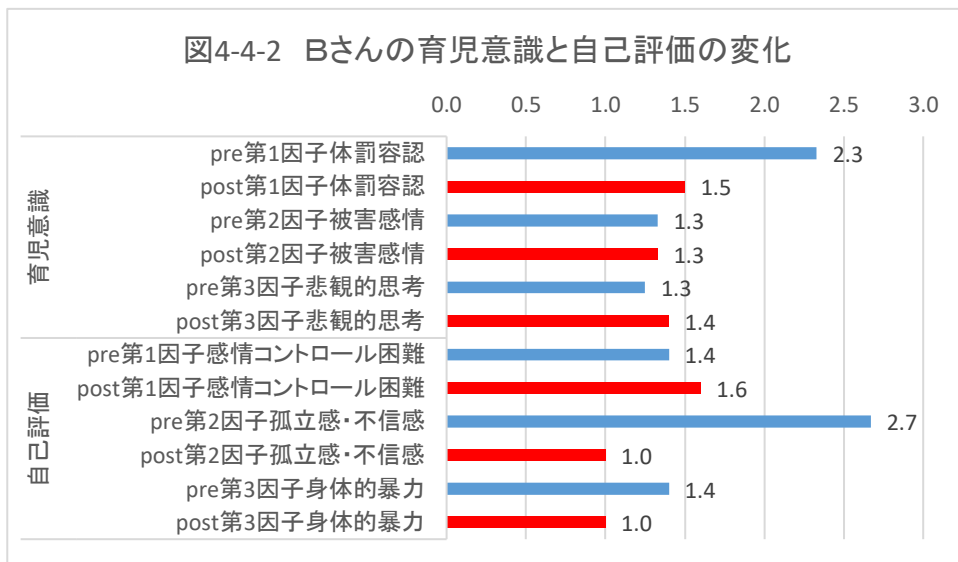
注) + : $0.05 < p < 0.1$

4-4 個別に見た育児意識と自己評価の下位尺度得点に関するプログラム実施前後の比較

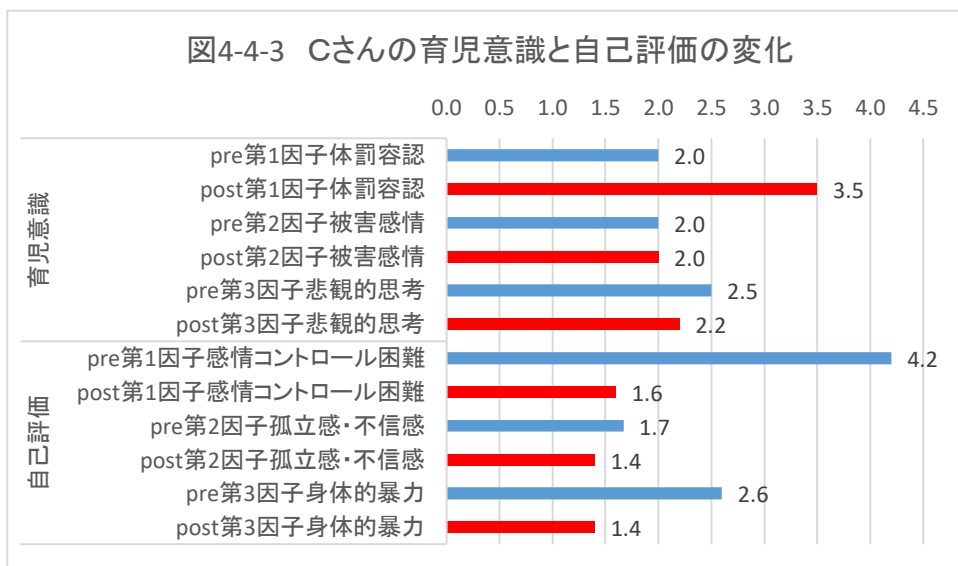
図 4-4-1～図 4-4-6 は、6 人の育児意識と自己評価のプレ・ポスト調査の下位尺度得点を比較し、どのような変化があったか示したものです。個人差があることがわかります。



体罰容認意識や被害感情意識は低くなりましたが、悲観的思考意識や孤立感・不信感は高くなりました。

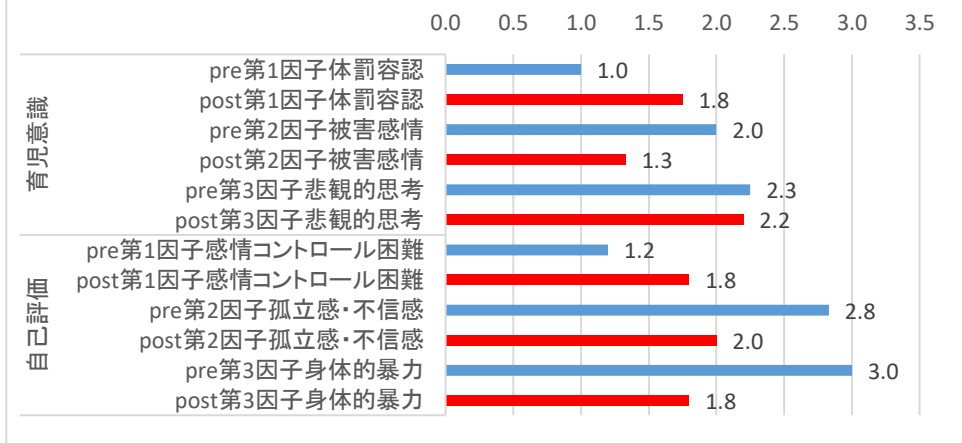


体罰容認意識や孤立感・不信感は低くなりました。



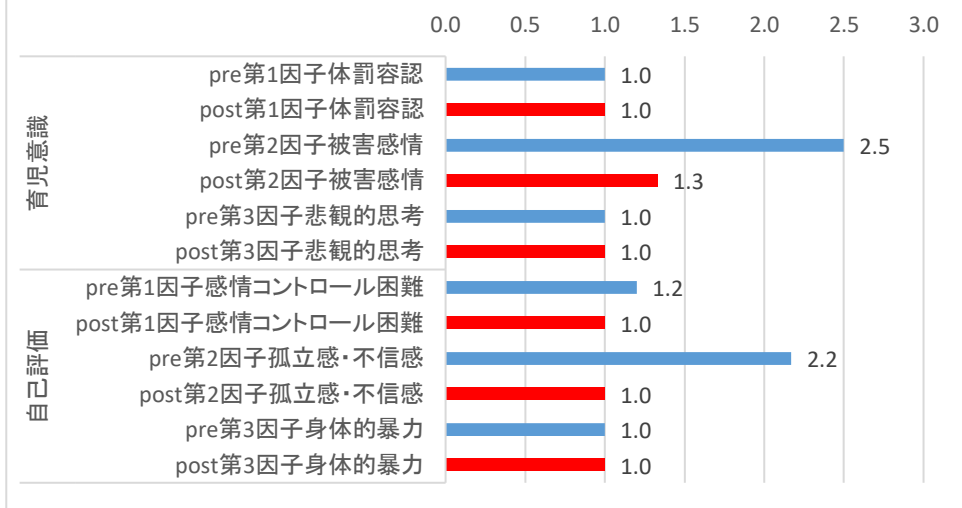
感情コントロールや身体的暴力については低くなりましたが、体罰容認意識は高くなりました。

図4-4-4 Dさんの育児意識と自己評価の変化



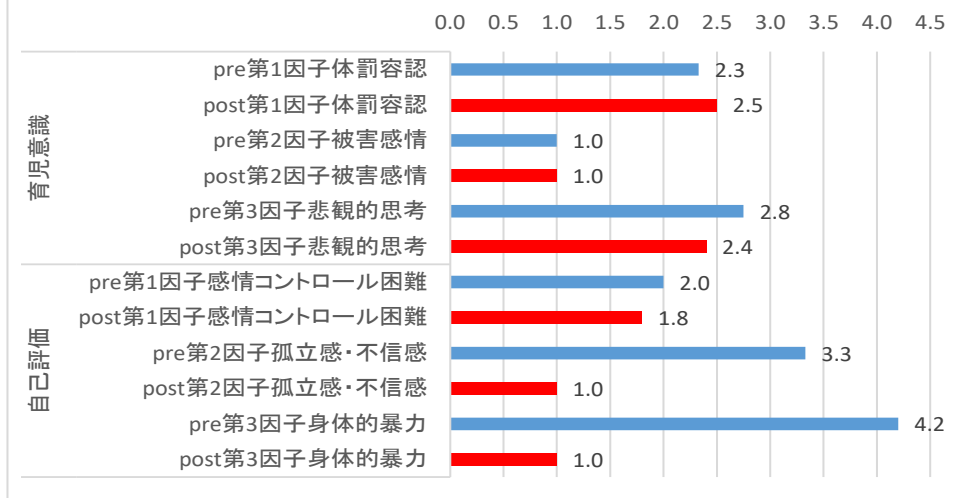
孤立感・不信感や身体的暴力が低くなりました。

図4-45 Eさんの育児意識と自己評価の変化



被害感情や孤立感・不信感が低くなりました。

図4-5-6 Fさんの育児意識と自己評価の変化



孤立感・不信感や身体的暴力が低くなりました。

5. まとめ — 「MY TREE 父親プログラム」の効果について—

- ①子育て状況、育児意識、自己評価のいずれの項目も、プレ・ポスト調査結果間に有意差はなく、プログラム実施による変化（効果）は認められませんでした。
- ②育児意識の3因子（体罰容認、被害感情、悲観的思考）と、自己評価の3因子（感情コントロール困難、孤立感・不信感、身体的暴力）の各下位尺度得点について、プレ・ポスト調査結果を比較すると、「感情コントロール困難」以外は有意差がなく、はっきりとしたプログラムの効果は認められませんでした。
- ③「感情コントロール困難」に関しては、プレ調査よりポスト調査の下位尺度得点が低くなっていたことから、プログラムに参加することによって「感情コントロール困難」が軽減される傾向があることがわかりました。
- ④対象者6人の育児意識と自己評価の各因子の下位尺度得点について、プレ調査とポスト調査を比較すると、個人差があることがわかりました。
- ⑤「MY TREE 父親プログラム」の効果がはっきりと認められなかったのは、対象人数が少なく、個人差が大きく影響していたからだと思われます。したがって、調査対象が増えると、母親を対象とする「MY TREEペアレンツ・プログラム」と同様に効果がはっきりでるのではないかと思います。
- ⑥「MY TREE 父親プログラム」のプレ調査では肯定的な回答が多く、最初から評価が高かったため、ポスト調査との差が出にくかったのではないかと推察されます。今後、この点についても考えて行く必要があると思います。

(2022年2月15日/八重樫牧子分析・記述)